

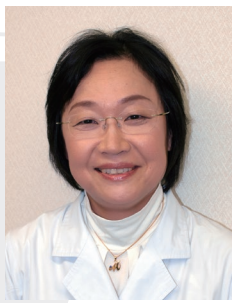
# 第15回更年期と加齢のヘルスケア学会学術集会 第4回日本サプリメント学会学術集会 イブニングセミナー2

## 腔・外陰部の退行性変化とレーザー光による resurfacing 治療

日時：2016年10月22日(土) 16:10～17:10

会場：帝京平成大学中野キャンパス 第4会場 (中野駅から徒歩9分)

座長：太田博明先生 (国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授 / 山王メディカルセンター女性医療センター長)



三井記念病院産婦人科医長。産婦人科専門医、女性医学学会認定医。東京大学卒、仏政府給費留学生(パリ第5大学)、専門はウロギネコロジー。女性のフェミニンゾーンのケアについて多くの提言あり。2002年4月より現職。

演題：閉経後のフェミニンゾーンの不具合について  
— genitourinary syndrome of menopause とは —

演者：中田真木先生 (三井記念病院産婦人科 医長)

Genitourinary syndrome of menopause (閉経後性器尿路症候群、以下 GSM)は、2012年頃から北米のセクシュアルヘルスと更年期医学の場面に現れた概念で、閉経後の腔と外陰部の萎縮傾向、局所的な随伴症状、および性生活の障害と下部尿路の不具合をひっくるめた実用的な症状症候群である。使い慣れた vulvovaginal atrophy (外陰萎縮、以下 VVA)という用語は、どこまで機能的な不具合を含むものとするのか、定義することが難しかった。GSMの提唱者らは、機能的な不具合を含める必要性が VVA から GSM への移行を促すと説明した。

米国食品医薬品局(FDA)は、VVAに限らずひとつの疾患や症候群として学術的にコンセンサスを得ている場合以外、複数の症状をエビデンスなしに統合することを許容しない。これまで、閉経に伴う腔の不具合を軽快させる医薬品や治療法を開発しようとする、腔乾燥感、性交痛、頻尿、尿もれなど、1つ1つの症状についていちいち効果を立証しなければならなかった。これは煩雑で時間と費用が膨らむ。時間と労力と費用のムダを何とかしたいと考えるのは当然である。さて閉経課題。エストロゲン欠乏と関連づけられる GSM であるが、閉経後のフェミニンゾーンの不具合には、加齢に伴う腔と外陰部の形態的变化や慢性炎症による皮膚・粘膜の老化加速という側面がある。体表を覆う皮膚は紫外線や化学物質にさらされる箇所では老化が加速されるが、フェミニンゾーンの腔、皮膚・粘膜は排泄物や体液、皮脂などの影響を受け続けて傷む。腔や外陰部を覆う粘膜や皮膚とその下層にはしばしば病的な硬化や萎縮がみられ、中には疼痛や刺激症状、膨満感などのために介入を必要とする症例がある。



聖マリアンナ医科大学卒業。産婦人科専門医。順天堂大学、千葉大学にて研修の後、松戸市立病院産婦人科勤務を経て1998年、ジュノ・ヴェスタクリニック八田を開院。地域に密着したクリニックとして思春期から更年期まで幅広い世代の女性の診療・カウンセリングにあたり、正しい知識の啓蒙活動も積極的にやっている。

演題：産婦人科クリニックにおける腔・外陰レーザー治療  
(モナリザ・タッチ)の試み

演者：八田真理子先生 (聖順会ジュノ・ヴェスタクリニック八田)

女性ホルモンの減少により起こる外陰部の不快症状や性交痛、頻尿や尿漏れなどの排尿障害は程度の差こそあれ、更年期以降の女性のほとんどが経験するとされている。しかし、日本人女性特有の国民性からなのか、それらの症状を自ら言い出せない女性、「年だから仕方ない」「ホルモン剤は使いたくない」とそれらの症状を放置し、治療を諦めている患者を多く診てきた。

当クリニックで2016年3月より腔・外陰レーザー治療を導入してから現在まで、婦人科検診やHRTで受診した外来患者の中で、レーザー治療を希望し同意を得た59名95例に施術を行った。平均年齢は57.8歳(33歳～81歳)で、トラブルで多い順に、「乾燥」69%、「排尿障害」66%、「かゆみ」59%で、「性交痛」は58%であった。HRT施行中は42例(71%)であった。全例に腔レーザー治療(モナリザ・タッチ)に加え、外陰レーザー治療(リジュビネーション)を症例に応じて重点的に施行した。さらに「排尿障害」を訴えていた患者には、同時に骨盤底筋トレーニング指導も行った。

多くの症例で効果は改善傾向にあり、副作用やトラブルは1例もなかった。特に、HRT施行症例は改善がより顕著で、満足度は高かった。

腔・外陰レーザー治療は、小規模クリニックでも容易に施術が可能であり、安全かつ効果的に「更年期以降の女性の不快症状の改善」を期待できる、新しい治療法の一つになり得ると考えている。

今回のセミナーでは実際の施術をビデオ供覧し、臨床評価について検討する。